

日本山岳写真協会 選抜展 「それぞれの山」

日 時／平成21年12月22日(火)～28日(月)

会 場／コニカミノルタプラザ ギャラリーC

1	初冬の鼓動	池田 栄子
初めてのハッ岳。歩き始めは樹氷の小道、川には氷の造形、気持ちはこれだけでハイに、後は山頂を目指し歩くのみ。黒く重い雲が立ち込める山頂で待つことしばし、諦めて下山しかけた時、太陽は私たちに微笑み、風は雲を追い払い、凛々しい姿を見せてくれた。やはり山岳写真は、「根気、元氣、やる気、天気」と、誰かが笑顔でつぶやいていた。		
2	輝く冬の山稜	大石 高志
四季の変化に富んだ日本の山でも、冬の山は一年で一番厳しい季節である。北からの冷たく強い風の方で雪の表面もいろいろな文様が形作られる。数少ない晴天の日に現れる太陽の輝きは、他の季節では味わえない、素晴らしい景観を見せてくれる。日の出の太陽、昼間の太陽、日没の太陽のそれぞれが醸し出す、冬山の異なる景観がそこにある。		
3	山頂は楽園	柏木 洋子
急登を登りきると、突然果てしない空と広大な湿原が現れた。秋色に彩られた大小さまざまな地塘は、悪魔の足跡にも見え、想像力をかきたてられる。平野からは見えない隠れた奥山だが、苗場山頂は楽園そのものである。深田久弥著『日本百名山』の苗場山には、「すぐれた個性はどんなに隠れようとも世にあらわれるものである」と。		
4	立山暮色	小澤 正美
落日の鉛色の雲の隙間から差し込む光は、弱々しく侘しい。足元の雪面が黄金色に輝く。地獄谷、大日、立山の山々は、黄色から赤み増し、ピンクから薄紫に。霧はブルーに変化し、数分の暮色の色彩ショーが繰り広げられ、やがて、夕暮れのドラマは幕となる。そして、夕闇に溶け込んでいく。 “明日 天気になあれ……”。		
5	宇宙からの贈り物	鈴木 進
人々は、陽光に輝く山岳を愛で、冷たく美しい月の光に酔い、星の輝きに感動を覚え、遠い宇宙の彼方に想いを馳せる。その素晴らしい世界に魅せられ、私はカメラを向ける。		
6	錦秋溜沢	瀬戸口 隆司
山は四季を通して美しい。とりわけ秋の紅葉は、多彩な彩りによって他のどの季節よりもリズム感がある。さらに日ごと変化するその様子は、アレグロのごとく早い。ここ溜沢カールに陽が注ぎ、再び木々による色のシンフォニーが始まる。そして、アンコールと絶賛の拍手は鳴り止むことはないであろう。		
7	厳冬の宝剣岳	滝澤 武源
天空に聳え、冠雪の宝剣岳が撮りたくて、冬の日、登山した。寒さ厳しく、強い風が吹き、撮影の難しさを味わった。太陽が傾き、雪面が輝いて美しい景観を見せてくれた。 「雪の日も伊那を見据える 宝剣岳」		
8	剱岳に舞う雲	辰見 昭子
剱岳、雄々しき山であり、憧れの山である。朝夕に輝き、雲をまとい、雪を抱くと日本一と思う。剱岳は東西南北どこから見ても(撮っても)写真になる。(東・西・南から剱岳を彩る雲)		
9	朝のざわめき	常盤 秀樹
北ハッ岳、北横岳方面は、積雪も多く樹氷が見られ、比較的手軽に行ける貴重な撮影ポイントである。しかし、この日の小屋前の温度計は、マイナス17度を示している。更にピークでは強風が吹き、これに耐えながらの撮影となった。だが、それに代えてくれる素晴らしい朝の光景に、しばし時間を忘れる。		
10	秋田駒に花を訪ねて	名取 洋
東北地方の山は、峻険な北アルプスに比較すると派手さはない。一方で積雪の贈り物というか、高山植物が美しい山が多い。ここ、秋田駒ヶ岳も6月下旬から「花の名山」となる。タカネスミレ、ミヤマダイコンソウは黄色く、チングルマ、ヒナザクラは白く、コマクサは赤く、それぞれが群落を成し、初夏の山はだに彩りを添える。		
11	夏・北穂高岳	長谷川 洋一
槍、北穂高、奥穂高の山稜コースは、四季折々、山々の織り成す風景は素晴らしく、特に、夏、秋期のシーズンは、人気のコースでもある。槍ヶ岳、穂高岳が一望出来る、北穂高岳周辺より撮影したものである。		
12	早春の室堂平から	畑 島 淳
富山平野に桜が散る頃、立山黒部アルペンルートが全線開通する。私は、毎年、スキーヤーがシュブールを描く前に一番乗りし、「早春の室堂平から」雪景色を撮影する。雄山の雪稜は輝き、奥大日にガスが流れ、時として吹雪になり、室堂平にシユカブラが形成されることもある。ほんの僅かな一瞬を撮るため、飽きることなくカメラを構え、私はこれからも室堂平に通い続けるだろう。		
13	槍ヶ岳を巡る	前羽 光雄
奥飛騨、蒲田川左俣より、そして鏡平への山路。まず眼前に飛び込んで来るのは槍・穂高連峰の勇姿。いつものことだが、筋書きのないドラマが始まり、さまざまな表情を魅せてくれるが、同じ感動は二度とない。素晴らしい槍ヶ岳。		